

資料1

アンチバイオグラム 2023(菌種別)

Escherichia coli 大腸菌

Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae クレブシエラ菌

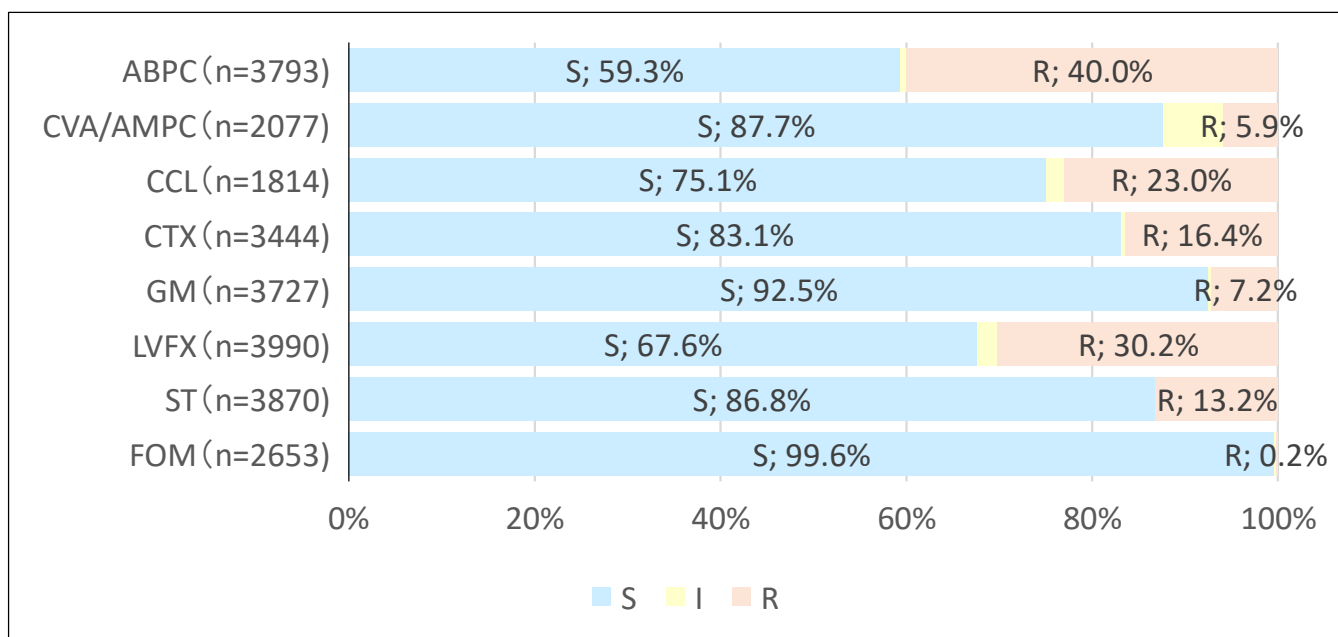
Streptococcus pneumoniae 肺炎球菌(髄液検体以外)

Streptococcus pyogenes 溶連菌

Haemophilus influenzae インフルエンザ菌

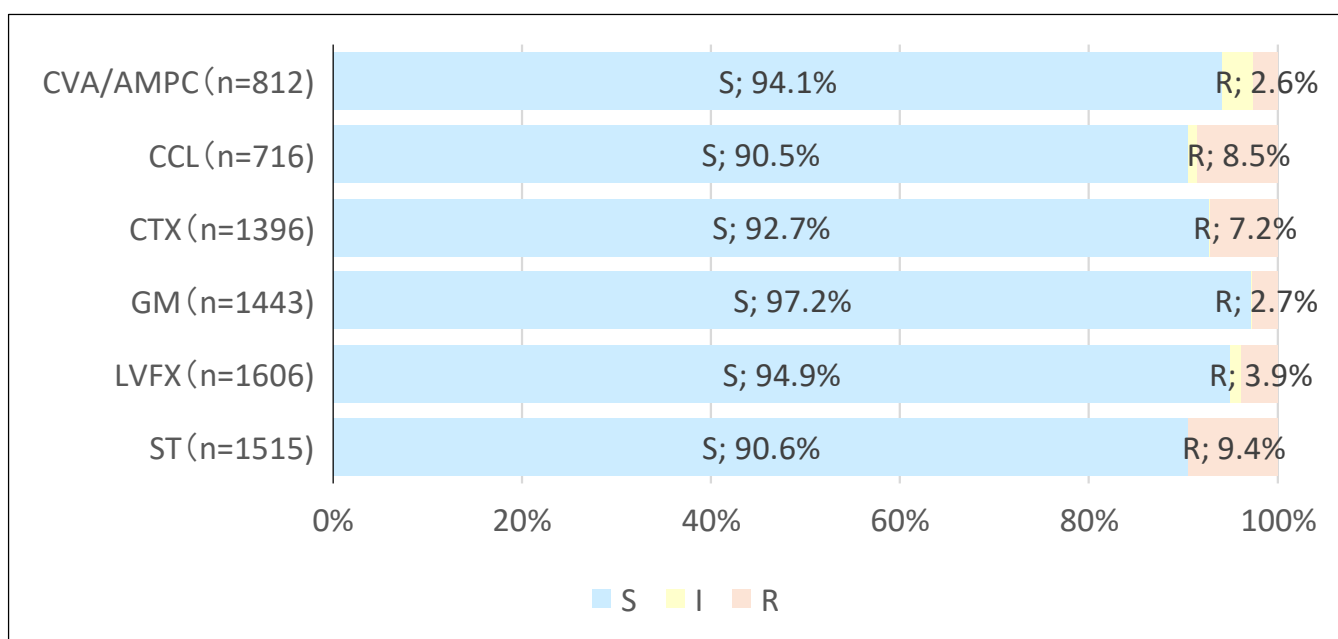
2023年1～3月に静岡県内の46施設(うちクリニック6施設)から集められ、薬剤感受性検査が実施された26,968菌株の感受性情報から静岡県のアンチバイオグラムを作成しました。

【*Escherichia coli*】

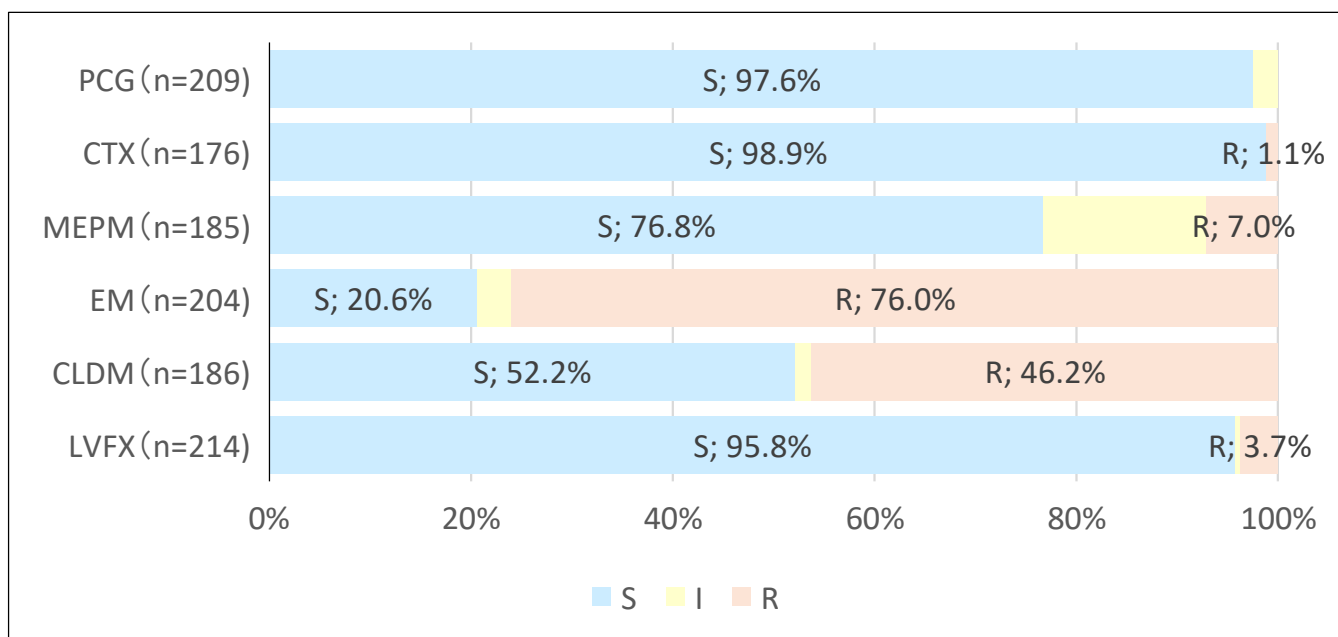


CLSI M100-ED33:2023 Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing, 33rd Editionでは、大腸菌に対するFOMの判定基準は、UTIのみに設定されています。

【*Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae*】



【 *Streptococcus pneumoniae* (髄液検体以外) 】

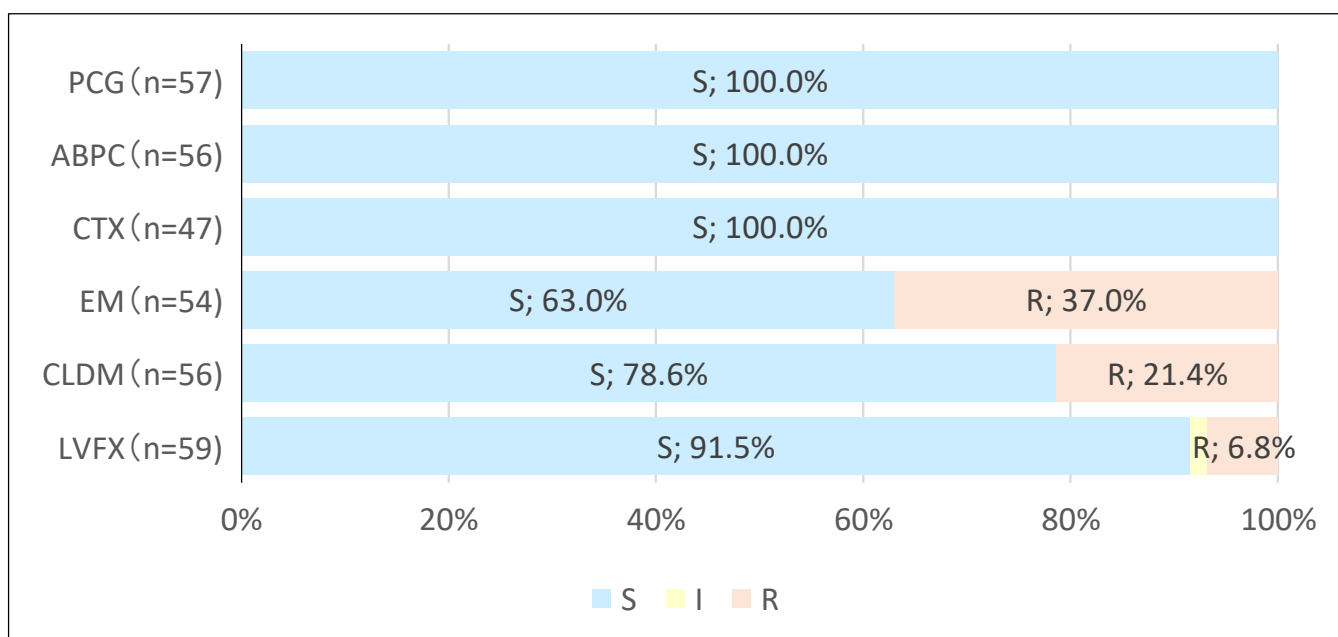


非髄膜炎検体の肺炎球菌では、ペニシリンのMIC ≤ 0.06 μg/mLであれば、以下の薬剤も使用可能である：

アンピシリン（経口・静注）、アモキシシリン、セファクロル、セフォタキシム、セフェピム、カルバペネム

(GLSI M100-ED33:2023より本邦で臨床的に使用可能な薬剤を中心に記載)

【 *Streptococcus pyogenes* 】



A, B, C, G群連鎖球菌では、ペニシリンに感受性があれば、以下の薬剤は使用できる：

アンピシリン、アモキシシリン、セファゾリン、セフェピム、セフトリアキソン、カルバペネム

(GLSI M100-ED33:2023より本邦で臨床的に使用可能な薬剤を中心に記載)

【 Haemophilus influenzae 】

